

農産担当・加藤の

今月の イチオシ



三隅半島にふりそそぐ太陽の光と不知火海の潮風、そして生産者の想いをたっぷり浴びて育ったみかんは、皮がやわらかくて甘みの濃い、“うんまい”みかんです。



美しい環境を次の世代へ
水の子会
(熊本県八代郡水川町)

水の子会の原点は、水俣病に苦しむ人達との出会いです。約40年前、まだ若い父親だった上村茂則さん(71才)は、胎児性水俣病の子どもたちと我が子の姿が重なり、「このまま農業を多投する農業を続けていたら、いつか自分が加害者になってしまうのではないかと」恐れを抱いたそうです。当時まだ珍しかった有機農業への転換をはかり、変人扱いされながら苦闘を重ね、1991年に志を同じくする仲間と水の子会を創設。以来、安全な農産物の栽培と普及に努めてきました。

水の子という名前は「水の恩恵を、そして水俣病の教訓を忘れてはいけない」という想いから。石鹸運動、イグサを河川に植えるなど、きれいな水を守るための活動に長年、会を挙げて

取り組んでいます。

地域の環境保全とともに、ほんとうの野菜&柑橘に情熱を燃やして三十数年…若い生産者が根付き、頼もしい後継者が育ちました。いま会をまとめているのは、二代目の上村一宏さん(46才)、れんこん栽培とその加工品に燃えています。娘二人、三世代六人家族の素敵なファミリーであり、生産者集団です。

11月中盤からの水の子会の温州みかんは、格別にコクがあり“甘か!”。農業を極力抑えているため見栄えは良くありませんし、糖度高く腐りやすのが難点ですが、年々ファンが拡大中の産地です。柑橘部会は20年以上も栽培勉強会を重ねて、7家族の生産者が同じコクのある味に努めています。

(ムソー商品部・加藤緑)

【栽培品目】温州みかん・柑橘類全般(特別栽培)、肥後あかね蓮根、里芋、せり、新たまねぎ(野菜は農薬不使用)

12月のおすすめ商品

手軽でおいしい生姜アイテム

古くから漢方薬として使われてきた「しょうが」。英語の辞書でgingerと引くと「鼓舞する」「刺激する」「元気づける」とあり、西洋でも“元気パワーの源”として愛用されていたようです。しょうがの辛味成分ショウガオールは血管を拡張して血流をよくし、体温を上げる作用があるとされています。



32659 <ムソー>
有機生姜使用・しょうが湯

<20g×5> 320円(本体価格) 346円(税込価格)



32660 <ムソー>
有機生姜使用
しょうが湯・箱入り

<20g×18>

1,080円

(本体価格)

1,166円
(税込価格)



32661 <ムソー>
有機生姜使用
かりんしょうが湯

<20g×5> 340円(本体価格) 367円(税込価格)



Macrobiotic Facilitator

 **ムソー株式会社**

TEL:06-6945-0511, FAX:06-6946-0307

〒540-0021 大阪市中央区大手通2丁目2番7号 <https://www.muso.co.jp>

 [ムソー公式Facebookページ https://www.facebook.com/MUSOcorp](https://www.facebook.com/MUSOcorp)